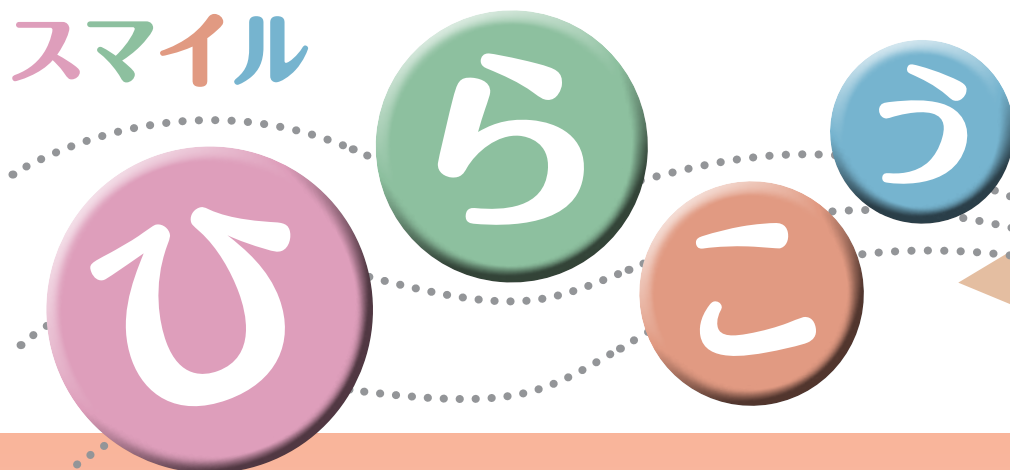


スマイル



2024

冬



新年のご挨拶

救急外来について／認定看護師通信 vol.63



新年のご挨拶を申し上げます



枚方公済病院 院長

木村 剛

皆様、新年明けましておめでとうございます。

病院長として枚方公済病院に着任して早くも1年9ヵ月が経過し、また新たな年を迎えました。枚方公済病院としては救急を中心に地域医療を全力で担うこと、そして自分の病院が提供する医療に誇りが持てるような質の高い臨床を実践することを今年も継続いたします。

枚方公済病院の地域への貢献といたしましては、何と言いましても救急医療における最後の砦としての機能であります。今年は「働き方改革」と「断らない救急」の両立が求められております。「医師の働き方改革」はそれを形式的に達成することが重要なものではありません。医師が生き生きと働ける仕組みを創り、頑張る医師にしっかりと報いることが重要であると考えます。

循環器内科では急性冠症候群や急性心不全の患者数は全国トップクラスであり、再開した不整脈のカテーテルアブレーションも良好な成績で順調に症例数を伸ばしております。消化器内科は多くの内視鏡検査治療を高い技術で安全に実施しております。泌尿器科、消化器外科ではロボット支援手術も順調に進めております。技術研鑽に務め安全性の高い良質な手術や内視鏡・カテーテル治療を実施して参ります。

診療においては患者さんの価値観や御希望を尊重することが最重要であり、我々は患者さんがベストな選択を行なうために必要な情報を分かりやすく御提供することを診療の根本に据えて揺るがないことをお約束します。

枚方公済病院はまだまだ足りないところの多い、発展途上の病院です。

313床の中規模病院であり「選択と集中」は重要ですが、脳卒中救急や肺癌診療など現在対応出来ない疾患へ診療の間口を拡げ、救急対応をさらに活発にし、診療科の守備範囲をより高度な医療へ高めると同時に、診療の質をさらに高め、「大抵のことにはしっかり対応出来る病院」として、北河内医療圏の基幹病院の立ち位置で地域を守って行きたいと願っております。地域からの「信頼」をますます強固にすることが最大のミッションであり、そのために日々の診療の中で地道な努力を継続する所存です。

本年も職員は一人丸となって頑張りますので、枚方公済病院に一層の御指導、御鞭撻を宜しくお願い申し上げます。



副院長（看護部長）

畑 幸枝

新年明けましておめでとうございます。

旧年中は格別のご厚情を賜りましたことを心よりお礼申し上げます。

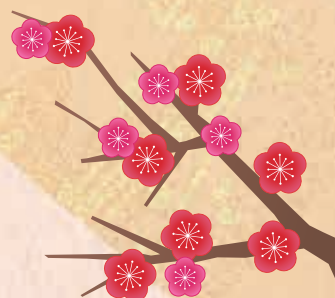
昨年５月から、新型コロナウイルスが５類感染症となり、感染対策を継続しながら面会を再開しております。患者さんやご家族にはご不便をおかけしておりましたが、クラスターの発生もなく経過しております。

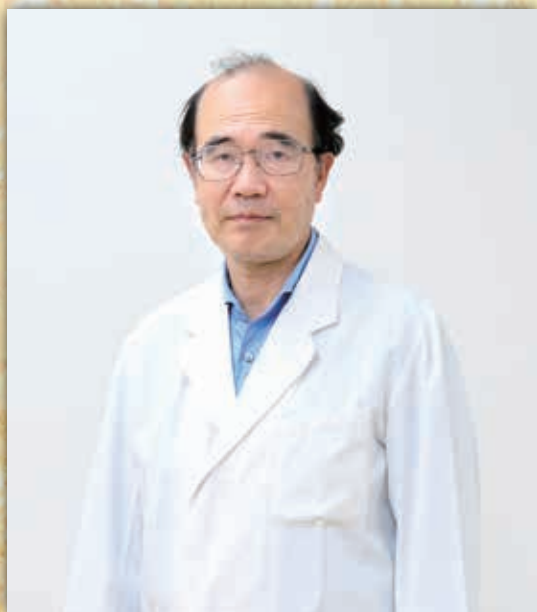
すべてがコロナ前と同様の対応とはなりません、菅原小学校での地域住民を対象とした「健康フェア」、病院・訪問看護ステーション・施設の看護師を対象とした「CV ポート研修」や「認定看護師によるストマケア・誤嚥性肺炎予防研修」など３年ぶりに対面で行うことができ、多くの方に参加していただくことができました。

高齢社会を反映し認知症患者も増加しています。認知症看護認定看護師と作業療法士により、週２回ではありますが「院内デイ」を開催し昼間の活動量を増やし良質な睡眠が得られるように努めています。昨年９月からは一般病床すべてに「眠りスキャン」を導入しました。睡眠状態や活動と休息のバランス、睡眠剤の効果を可視化でき、より患者さんに合った看護が提供できるようにしたいと思っています。

また、枚方市からの要請を受け「認知症初期集中支援チーム」の活動を開始しております。これは、地域の方が認知症になってもできる限り住み慣れた地域で暮らし続けられるように、認知症の早期診断・早期対応を行うために枚方市・地域包括支援センターと連携をしながら活動するものです。

地域に根ざした急性期病院として、「選ばれる看護部」となれるよう努力してまいりますので、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます





地域連携患者さん支援センター長

片岡 宏

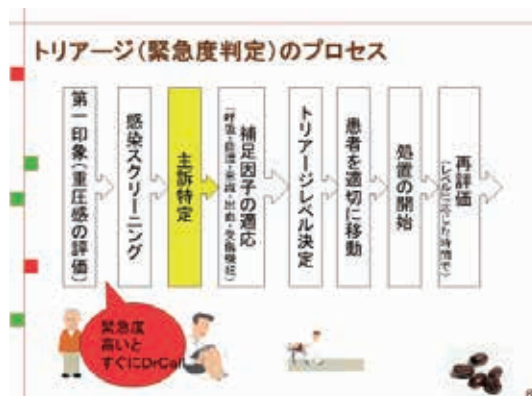
新年明けましておめでとうございます。昨年は地域のクリニック、病院、施設の先生方、看護師さん、ケアマネジャーさんには大変お世話になりました。地域連携患者さんセンターの運営の過分な任をいただき1年以上が経過しましたが、ご迷惑をおかけしつつ、至らぬ点につきましてはご指導もいただきながら日々過ごしております。今年に入り循環器内科、外科、泌尿器領域での新たな取り組みも開始されており、地域の先生方を訪問させていただく機会には案内させていただきたいと存じます。新規に取り組ませていただいている治療を要する患者さんの診療を地域の中で完結できるという意義からも近隣の先生方には適応のある患者さんの紹介を今まで以上にお願いしたいと存じます。当初はコロナ禍へ対応する広報活動の一環として開始した「ひらこうオンラインミニレクチャー」も地域の先生方にご支持いただき、おかげさまで回を重ね地域に定着するような催しになりつつあります。最新の治療を導入しつつも諸事情で他院での対応が困難な患者さんを診療させていただくことも地域医療への貢献と認識しています。可能な限り、お引き受けできるよう尽力させていただきますので、お困りの際は当院に遠慮なくご相談ください。地域連携患者様支援センターでは前年に職員の入れ替わりもあり不慣れな所もあるかと存じますが、今後とも当院が地域医療に貢献をしていけますよう皆様のご指導よろしくお願い致します。



救急外来について

当院の救急外来は、月に約 400 件の救急車と、約 400 件のウォークイン患者を受け入れています。当院は主に循環器系疾患を中心に内科系の救急医療を提供しており、救急室看護師は予定のカテーテル検査はもちろんのこと、ACS（急性冠症候群）に対する緊急カテーテル手術にも迅速に対応しています。

また、患者さんへの最適な医療ケアを提供するために、院内トリアージを導入しています。院内トリアージは、患者さんの状態や症状に基づいて、医療ケアの優先順位を設定する重要なプロセスです。救急外来看護師は、緊急のケースにおいても冷静に判断し、最適な治療を行うとともに、患者さんの不安や苦痛軽減に配慮することを大切にしています。



さらに当院救急外来の特徴として、心疾患再発予防手帳（レインボー手帳）の活用も積極的に行っています。

レインボー手帳は、心疾患のある患者さんに対して、自己管理能力の向上、医療介護従事者間の情報共有により、再入院を予防する目的で導入しています。現在、医院やクリニックで51施設、病院で18施設が、退院後も引き続き手帳を利用いただいています。救急外来では、受診した患者さんの状態を把握するために自己管理への労いとコメント記入を行っています。また、入院時の病棟への申し送り、帰宅時の指導に活用し、患者さん、ご家族、その他ご支援いただく方と情報を共有しています。

引き続きぜひ手帳を活用していただき、当院受診の際は手帳の持参をお願いしたいと思います。



活用例





活動報告

感染対策では近年、地域連携が重視されており、合同カンファレンスの開催や、相互ラウンドなどが加算要件として定められています。当院でも感染防止対策向上加算2を算定する医療機関、外来感染対策向上加算を算定する医療機関との合同カンファレンスを開催しました。また、感染防止対策向上加算1を算定する医療機関との相互ラウンドも行いました。

7月に、外来感染対策向上加算を算定する医療機関への訪問を行いました。クリニックで新型コロナウイルス感染症患者の受け入れをどのように行われているのか、実際に見せて頂きました。いずれの医療機関でも様々な工夫が行われており、しっかりとゾーニングが行われていました。

11月の合同カンファレンスでは、当院のミキシング台周辺に注目してラウンドを行っていただきました。また、12月には加算1の医療機関の方にチェック表に基づくラウンドを行っていただきました。いずれの医療機関の方からも、整頓ができていと高く評価していただきました。特に加算1の医療機関の方からは「収納に段ボール箱がない。手洗い場がきれいである」との評価をいただきました。

他の医療機関に実際に訪問したり、訪問されたりすることで、改善のヒントや、問題提起など、様々な気づきがありました。今後もよろしくお願いします。

感染管理認定看護師 篠原 晃子



合同カンファレンス 4回／年 うち3回終了
相互ラウンド 2回／年 2回終了
感染防止対策向上加算算定医療機関訪問 1回
外来感染対策向上加算算定医療機関訪問 3回実施



病棟ごとの勉強会 依頼受付中！

認定看護師会では病棟ごとの勉強会、
研修の依頼を受け付けています。
既存のテーマでも、看護で困っていることなど
なんでも結構です！
リクエストお待ちしております！

各分野認定看護師

クリティカルケア：村上
慢性心不全看護：原谷
感染管理：篠原
皮膚・排泄ケア：大西
認知症看護：藤原
認知症看護：佐藤
嚥下・摂食障害看護：日向
がん薬物療法看護：多賀





認定看護師の豆知識

「けんしん」について

「けんしん」についてご紹介します。

「検診」は、特定の疾患を発見するためにおこなわれ、精密検査の場合は確実に診断することが目的になります。

「健診」は、疾病のなりやすさを判定するためにおこなわれ、異常値の場合は必要に応じて疾病を防ぐための指導をうけることが必要になり目的が「検診」と異なります。

がん検診の目的は、がんを早期に発見し、適切な治療を行うことでがんによる死亡を減らすことです。

厚生労働省の「がん予防重点健康教育およびがん検診実施のための指標」に定められた検診は以下の5種類になります。

厚生労働省の「がん予防重点健康教育およびがん検診実施のための指針」に定められた検診は以下の5種類です。

* 国が推奨するがん検診 *

種類	対象者	受診間隔	検査項目
胃がん検診	50 歳以上 * 胃部 X 線検査は 40 歳以上も可	2 年に 1 回 * 胃部 X 線は年 1 回も可	問診・胃部 X 線または胃部内視鏡
子宮頸がん検診	20 歳以上	2 年に 1 回	問診・視診・細胞診・内診
肺がん検診	40 歳以上	年 1 回	問診・胸部 X 線
乳がん検診	40 歳以上	2 年に 1 回	問診・マンモグラフィ
大腸がん検診	40 歳以上	年 1 回	問診・便潜血検査

先日、自宅に「がん検診」のはがきが届いていました。私自身ここ数年、新型コロナウイルス感染症の影響で受けていなかった検診です。今年度は申し込みをしました。

がん薬物療法看護認定看護師 多賀 亜子

理念と基本方針

理念

医療への貢献と奉仕

基本方針

- 地域における中核病院として、快適な療養環境と高度な医療を提供する。
- 患者さんの立場を尊重した合理的かつ安全な医療を行う。
- 病院は働き甲斐のある職場を整備し、職員は知識と技術の研鑽に励む。
- 強く、優しく、頼れる病院を目指す。

交通のご案内

JRをご利用の場合

【電車】JR 学研都市線長尾駅下車 徒歩 10 分

【バス】長尾駅から京阪バス枚方市駅行【63】に乗車、枚方公済病院下車

【電車】JR 学研都市線藤阪駅下車 徒歩 10 分

【バス】藤阪駅から京阪バス長尾駅行【63】に乗車、枚方公済病院下車

京阪電車をご利用の場合

【電車】京阪本線枚方市駅下車（京阪バス南口から長尾駅行）

【バス】枚方市駅から京阪バス長尾駅行【63】に乗車、枚方公済病院下車

※長尾駅より無料直通シャトルバスを運行しております。

（詳細は当院ホームページをご参照ください）



国家公務員共済組合連合会
枚方公済病院
地域医療支援病院
日本医療機能評価機構認定病院



〒573-0153 大阪府枚方市藤阪東町1丁目2番1号
TEL 072 (858) 8233 FAX 072 (859) 1093
<https://hirakoh.kkr.or.jp/>